

会議結果報告書

1. 会 議 名 令和2年度第1回印西市環境推進市民・事業者合同会議
2. 日 時 令和2年11月13日（金）9：30～11：30
3. 場 所 印西市役所会議棟204会議室
4. 出席委員：岩井会長、白川委員、小山委員、橋本委員、平林委員、福井委員、三輪委員、
土肥委員、朝倉委員、川村委員
事 務 局：黒田、清田（環境保全課）
5. 傍 聴 者 1名
6. 配布資料
 - ・令和2年度版印西市環境白書（案）
 - ・2020 印西市自然環境調査報告
 - ・令和2年度版印西市環境白書（案）への意見・提案について（依頼）
7. 内容
 - （1）開会
 - （2）会長挨拶
 - （3）議題
 - ①令和2年度印西市環境白書（案）について
—令和2年度印西市環境白書（案） 基本目標1について事務局より説明—
会 長：以上の説明に、ご意見、ご質問があればお願いします。
委 員：今の説明とは関係ないが、p.10の意見について、いつも意見を言いつぱなしという印象が強く、私たちが出した意見に対してどのような取組があったのかが気になる。また、遊休農地について、農地転用など載っているが、谷津の荒廃がどうかということは、遊休農地だけでは測りにくいのではないかと。白書には農地転用が進んでいる・いないとの記載があったと思うが、それとは関係なく、頑張っ
て耕そうということで農地面積が増えているかどうか。
会 長：谷津が荒れているのではないかとすることは実感としてあるが、それがこの指標の一覧に載っていない。環境目標にも谷津をどうするのかということが載っていないため、載せて欲しいと思う。
委 員：この目標を見ていて、遊休農地が本当に減っているのかと思う。現状で身のまわりを見ていると、どんどん遊休農地が増えて、田んぼは草が茂っている状況なのに、減っているとはどういうことか。
事務局：遊休農地については担当が農政課であるが、実際に農作物を作っておらず、草刈などの整備を行っているだけでも、遊休農地とはならないということである。
委 員：去年は調査がなかったから書いていないが、生物がまだたくさんいるようなま
めをしているが、そこもどうかと思っており、実際に特定外来生物が植物で5種、

動物は5種と書いてあるが、これはどうなのか。

会 長：今回は調査されていないから、更新されていないということではあるが、実感とは違うなという印象はある。

委 員：自分のまわりでは菜園をやっている人がどんどん増えているように思うが、市民農園の数は393区画しかないのか。

事務局：市民農園に関しては、市で把握できているのが市の市民農園とJAがやっているものである。実際の市民農園は個人でやっているところもあるのではないかなと思う。

委 員：区画が指標になっているが、区画より面積や利用人数の方が良いのではないかな。

会 長：新しい環境基本計画を作る際に指標の見直しは必要である。

委 員：p.19の生き物調査の下から3～4行目について、ここの文章だけ読むと「平成23年度に実施した調査では、植物803種、動物539種」と書いてあり、要するに平成23年から種数が増えているという印象すら与えられるが、希少な生き物等がどんどん絶滅しているのは見ているため、増えたということは可能性としては低いのではないかな。ここの書き方は工夫できないかな。

事務局：確かにその書き方だと増えている印象になる。この後、夏の自然環境調査の結果を説明する際に、その答えも入れようと思う。

会 長：では次に基本目標2の説明をお願いする。

—令和2年度印西市環境白書（案） 基本目標2について事務局より説明—

会 長：以上の説明に、ご意見、ご質問があればお願いします。

会 長：印旛沼と手賀沼については、日本で印旛沼は1番目、手賀沼は3番目に水質が悪いが、環境白書には一切載っておらず、どうしてなのかと疑問に思う。印西市が管理しているわけではないからなのか。また、新たにPM2.5がテレビなどで取り上げられているが、これも白書に出てこないのはなぜか。環境基本計画に載っていないからという答えかなと思うが、それなら基準もできているので計画に載せるべきだと思う。10μm以下の粒子である浮遊粒子状物質については載っているが、人体に影響するのは2.5μm以下の細かいものであり、環境基準ができた。PM2.5については無視しているのか、これが分からない。

事務局：仰る通り、環境白書は基本計画に基づく資料であるため記載していない。

会 長：環境基本計画の記載内容は、法律が変わっても修正しないのか。そこが問題ではないかなと思う。変わったなら計画も見直すべきではないかな。

委 員：そもそも環境白書は、環境基本計画に沿って取組の結果などを記載するものなのか。

事務局：そうである。

委 員：その中で法律が変わったりしたものを新たに追加する仕組みにはできるのか。

会 長：環境基本計画は、大きな変更があったときは修正しなければならないとなっている

るが、そうではない場合は修正されない。次期計画で変更することは可能か。

事務局：指標を作る担当課の方で考え、次回の計画では変化に合ったものとする。

会 長：印西市での対策は難しいが、PM2.5が増えたら危険だということはみんなに伝えなければならない。これは次の計画での課題である。

委 員：合併処理浄化槽の普及率と師戸川のBOD濃度は相関性があるのか。何か他に師戸川の水質を改善する具体的な手段はないのかということを聞きたい。

事務局：主に草深の原地区からの排水は師戸川に流れていくため、市としては高度処理型の合併処理浄化槽を入れ、なるべく綺麗な水を流せるようにと推進している。高度処理型に変えると何が違うのかという点を業者に確認したところ、魚が住める住めない程度の違いは出てくるという話である。しかし、ご存知の通りそれ以外の影響もあるため、それをどうやって師戸川の水質改善につなげていくかは難しい話である。

委 員：合併処理浄化槽の普及はおおむね順調に来ているのに、BOD濃度は改善されず、むしろ上昇している。

事務局：測定している場所もあり良くない可能性がある。

委 員：白書の総評では、BOD濃度は悪化しているのに取組は順調だと述べている。

事務局：師戸川以外でも、手賀沼に流れる地域で浄化槽が設置されている場所もあり、浄化槽普及率はその全体について示している。

委 員：全体のことを示しているのなら総評の記載内容を変えた方が良いのではないか。1行目は師戸川のことにのみについて言っているかと思うため、浄化槽については改行して3行目にした方が良いのではないか。

委 員：師戸川についてはどうにもならないのか。

委 員：師戸川の周辺は田んぼが多く、肥料などが全部流れ込んでしまう。前に提案したことがあるが、川に流れ込むところに浄化槽を市で設置すれば、浄化された水が師戸川に入る。そうしない限り、この問題はずっと続いていくのではと思う。

委 員：師戸川の付近で農業は増えていないか。

委 員：農業は増えていない。

委 員：平成27年と比較するとBOD濃度は2倍以上である。合併処理浄化槽の高度処理のものを入れていないのが原因なのか。

事務局：全てが高度処理型ではなく、また、高度処理型を入れたとしてもその後のメンテナンスをやらないと機能は維持できないため、市としては検査やメンテナンスもしてくださいというお知らせをしている。

会 長：設置コストは高度処理型と普通のものでどれだけ違うのか。

事務局：20～30万円は違う可能性がある。

会 長：その補助はしていないのか。

事務局：市では高度処理型のみに補助金を出している。

委 員：次回の計画からになると思うが、点検率のようなものを指標で設けて頂けたらと思う。

委 員：師戸川の水質の改善が進んでいないように思うので、3行目に「より一層改善させる施策を推進させていきます」と前向きな姿勢を示してほしい。

会 長：他にご意見がなければ次の目標に移る。基本目標3の説明をお願いします。

—令和2年度印西市環境白書（案） 基本目標3について事務局より説明—

会 長：基本目標3について、ご意見、ご質問があればお願いします。P.28に「令和元年度に監視カメラを10台増やした」と書いてある。監視カメラは有効だと思うが、不法投棄が見つかったなど、監視カメラの効果がここには書いていないため、それをお聞きする。もう1点、不法投棄についてP.28の下にグラフがあるが、単位が分からず、件数かパーセントか入れないとわかりにくいのではないか。

事務局：カメラを設置した効果については、設置することで不法投棄者を捕まえることもできるが、抑止効果を期待し、捨てられる恐れのある所に設置している。

会 長：設置する場所は、市民から「ここにつけてほしい」と要望があったところにつけるのか、それとも過去に不法投棄があった場所につけるとか、そういうことか。

事務局：そちらは担当課に確認する必要がある。単位については件数となるため、修正させていただく。

委 員：P.34の「歴史民俗資料館への来館者数」は木下交流の杜歴史資料センターも含まれるのか。これだけ見ると印旛の方だけのように思えたが、前頁をみると両方の写真が載っているの、併せてかとも思う。

事務局：確認はさせて頂くが、恐らくは歴史民俗資料館となっているため、印旛歴史民俗資料館のみの数値であると思われる。木下交流の杜は数年前に出来たため、現行の環境基本計画の指標としては入っていないかと思う。

会 長：他にご意見がなければ次の目標に移る。基本目標4の説明をお願いします。

—令和2年度印西市環境白書（案） 基本目標4について事務局より説明—

会 長：基本目標4について、ご意見、ご質問があればお願いします。

委 員：総資源化率について、事務局から説明のあった民間での資源回収が増えたために総資源化率が減ったという文章は書いていないか。

事務局：p.39の指標の下部に備考として記載している。

委 員：了解した。総資源化率は下がっているが、市民の努力が足りない訳ではなく、民間などでの回収が進んだためという内容が書いてあれば良いと感じた。

会 長：前からそれは問題になっている。私の住む地域でもそうだが、業者が資源物の回収をしており、その量はどこにも報告されていない。民間回収の数字は結構大きいので、業者に数量を報告してもらえば、資源化率は大きく上がるのではないか。資源物を出していないのではなく、統計の取り方が悪いと感じる。正しい数値が取れないとするとこの指標はどうなのか。自治会や町内会でも資源物の集団回収

を行っており、それに協力する業者に出すと業者が市に報告する。その他、市の業者が回収した資源物も報告されるが、全てを把握できているわけではなく、問題であると感じる。また、1人当たりの二酸化炭素排出量が出ているが、以前事務局からも、印西市の1人当たりの二酸化炭素排出量は把握できないという話があったと思う。この数値は、千葉県の1人当たり平均排出量を印西市の人口で計算したもので、印西市の市民1人当たりからどれだけ出ているかという正確な数値は計っていないという理解でよろしいか。それはどこかにちゃんと書いてあるのか。

事務局：計算方法については、昨年公表した白書に掲載されており、今年はまだ資料としてお渡しできていないが、同じく資料編に掲載予定である。

会 長：計算方法は千葉県のデータを人口による按分で印西市に当てはめているのか。

事務局：一部はその通りである。

会 長：そういうことであれば、印西市が千葉県平均より一生懸命CO₂を減らしても、その数字は埋没してここには載らない。千葉県の平均の一部にしかならないことが不満である。市によっては自分で調べてやっているところもある。ただし車の台数など、全ての数値を印西市が把握するというのは大変だと思う。でも本当はそれをやって初めて印西市は千葉県の平均よりも頑張っているということが言える。他にご意見がなければ次の目標に移る。基本目標5の説明をお願いする。

—令和2年度印西市環境白書（案） 基本目標5について事務局より説明—

会 長：基本目標5について、ご意見、ご質問があればお願いします。

委 員：ごみに関する出前講座について、小中学校何校で何講座実施したということを記載して、市民に知らせてほしい。

委 員：どこの箇所か。

委 員：p.40の「市の取り組み」である。

会 長：ごみの減量の出前講座というのは非常に役立ち、子供達にも評判が良い。もっと教育委員会も市も積極的に実施すると良いと思う。しかし、今年の出前講座の開催は、コロナ下で難しくなっている。人が集まらなくても良いようになど、お互いに努力してやっていきたい。また、お年寄りが多いから環境団体がどんどん減っていくというのは確かである。

委 員：そこまで書いているのであれば、ではどうすれば良いのかと書いてあげばと思う。

委 員：市民アカデミーを卒業する際に、市内にはこんな団体がありますよという照会があると良いのではないか。

会 長：それはやっていたかと思う。

委 員：SDGsは何人も関心を持つ方がいて良かった。どこかやっている団体があるかを聞かれた方もいたが、「この団体はSDGsだけをやっているわけではない」としかお答えできなかった。

- 会 長：確かに受け皿がない。
- 委 員：SDGs をやっている団体はないのか。
- 会 長：聞いたことはない。そろそろ終わるため、事業者の方にも何か一言お願い出来ないか。
- 委 員：こういった大きな環境課題などについてあまり知識がないが、私の所属する松崎工業団地は、今年の目標に「環境を大事にする」ということを掲げ、ごみを捨てない環境をつくるため、役員が2ヶ月に1回くらいごみ拾いをしている。竹林など以前はごみが大変たくさんあったところを綺麗にした。人の移動の際に捨てていかれるので、捨てられる環境をつくらないようにしようというのが今年の目標である。我々も環境に関しては関心があり、環境保全活動など声をかけていただければ是非参加したいと思う。どういう生物がいるなど専門的なことは分からないが、環境をきれいにすることというのは工業団地でも取り組めることである。
- 委 員：松崎工業団地の近くには非常にいい里山環境が残っており、途中の池ではオオタカがよく水鳥を獲りに来ている。
- 委 員：ため池のまわりは草がぼうぼうで木がすごいので、印西市にお願いして綺麗にしてもらった。あとはどこかから勝手に住民がネットを引いてボートで魚を釣ったり、タバコを吸ってポイ捨てをしたり、ということがあるので、そうした小さいところから改善したいという取り組みを行っている。
- 会 長：綺麗にしていると物を捨てない。だけど誰かが捨てると、ここは捨てていいんだ、となって捨てる。
- 委 員：ごみ拾いというのは月1回とか定期的にやっているのか。
- 委 員：まだそんなに頻繁には出来てはならず、最初やってみて、余りにも汚いので、今の役員さんだけでもやりましょうという形から、3か月に1回程度行っている。
- 会 長：では他の方も意見があればお願いしたい。
- 委 員：私はイオンモールでISOを担当している。総資源化率で、民間に出されているものが含まれず、総資源化率が下がっているという話について、我々イオンモールでは、資源物を持ってきていただくとポイントをつけるという制度を取っている。スーパーやジョイフルなど色々なところで動きがある中、民間が市民の皆様にリサイクルを促す活動をしているのが除外されてしまうということになっている。イオンモールでは、委託している業者に依頼すれば回収率を集計することは可能であり、民間としての回収率を公表していける可能性もあると思っている。
- 会 長：イオンモールにおける資源物の回収率は統計を出しているのか。
- 委 員：資源物の回収量などは集計を取っていないが、事業者として廃棄物についてのリサイクル率は集計している。
- 会 長：お客さんが持ってきた段ボールやペットボトルを市には報告していないのか。
- 委 員：ボックスを設置している会社が完全にリサイクルに回すため、段ボールであれば

売ってしまつて資源として再利用される。しかし、回収量を把握し、市に報告することは可能であるかと思われる。

会 長：市と協議してぜひそうしてほしい。

委 員：その他イオンモールとしては、お客様に対して、環境に配慮した取り組みの周知する場を提供するなど、広報活動への協力ができると思う。

会 長：イオンモールは田植えなど子供の環境教育もやっている。私は市民団体の地球温暖化防止委員会に入っているが、そこで2年位前に地球温暖化などの環境教育をしてほしいと呼ばれ、やったことがある。イオンモールはすごいことをやっているんだと思った。

委 員：印西木下などにあったこどもエコクラブはまだあるのか。

委 員：今は活動の機会は減っている。

会 長：子供に環境教育するのはとても大切なことである。他にご意見があればお願いしたい。

委 員：全体的な印象としては、やるべきところを網羅的にやられているという印象は受けたが、企業の立場で言うともう少しメリハリや特色があると良いと思う。

会 長：印西市に特徴がないということか。

委 員：取組の方法が今は全体的ではあるが、もっと重点施策を設けてメリハリをつけた方が、例えばパブリシティに載りやすくなると思う。行政ではないが、今週、富里市ではウクライナの女性が谷津の田園風景の中でコンサートをやった。それは千葉県で放映されたりして、非常にユニークな取組だった。印西市や千葉県はポテンシャルはすごくある自治体であり、折角だったらモビリティ、要するに公共交通で新しい交通に挑戦してみるとか、社会実験的なことをしてみてもいい。

会 長：持続社会や循環型社会などか。

委 員：例えば自動運転や新しい福祉車両など、全国で交通に関して環境にやさしいものは当たり前で、さらに人にやさしい、例えば老人個人向けのどこでも停車や乗車ができる福祉車両なども進んでいるし、印西市であれば他の自治体がうらやむような少し先進的な取組もできるだけの可能性があると思う。そういうことを宣伝的に仕掛けるくらいのことがあってもいいと思うし、環境分野は単独の多目的な取組に今は留まっている印象がある。市は縦割리があるとは思いますが、まちづくり全体を見て、環境の一番いいところは多目的・多機能性であり、環境・社会・経済・健康まで全部を複合目的・多目的に取り組んでしまうと一石十鳥にもなる。その戦略をもっと研ぎ澄ましていくと良いのかという印象を持った。また、最後の基本目標5について、次世代への環境教育がとても大事であり、弊社も住居が印西市にある従業員が多くなってきて、その子ども達も印西市内の学校へ通っているが、こんなに自然に恵まれた魅力的な里山環境と隣接した場所で子供を育てることは良いことであると感じる。自然に恵まれた自治体に住むと子供の環境

リテラシーが上がって学力も上がるということが相関として分かっており、自然と接することは子供の発達にすごく良いとされている。自治体にとっても企業にとっても家庭にとっても、自然環境と接している場所で子供を育てられる環境があると、全員がWin-Winになる。この辺りがもっと充実していくと、自治体としても企業としても発展ができ、まさにSDGsではないかと感じるため、企業としては環境目標5にすごく力を入れて頂きたい、私たちが講師を派遣するような協働もできると思う。

②2020 印西市自然環境調査報告について

—2020 印西市自然環境調査報告について事務局より説明—

会 長：この調査はどのくらいの人が携わっているのか。

事務局：延べでは、魚類調査が一番分かりやすいと思うが、1か所あたり2～3人で半日である。

委 員：P.7の写真はカブトムシのメスではないか。

事務局：こちらはノコギリクワガタで誤っていない。

委 員：保全していない所ではヘイケボタルが本当に減っているため、できればヘイケボタルについても書いて欲しい。あと、ゲンジボタルは水路の泥掻きなどが必要と書いてあるが、昔はみよ（水路）掘りをする中でゲンジボタルが生きていたので、泥掻きより農作業のみよ（水路）掘りが関係している。

事務局：ボタルは農地との関係が非常に重要だと思っている。しかし、開発も重要であるため、保全とのバランスが大切である。

委 員：農地の場合は荒れてしまっている状況を、何とかして改善していかなければいけないと思う。

会 長：それでは以上で終了としたいと思う。

以上

令和2年度第1回印西市環境推進市民・事業者合同会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和2年12月18日

印西市環境推進市民会議 委員 白川 卓生

印西市環境推進市民会議 委員 小山 尚子